

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名: 石井 百萌 所属: 戸田市立喜沢小学校 記録日: 2022年2月11日

キーワード: 読み書き困難の補助、自己肯定感の向上

【対象児の情報】

- ・学年 2年生
- ・障害名 ADHD、自閉症スペクトラム症、読み書き障がい
- ・障害と困難の内容
 - ・落ち着きがなく、じっとしていることが苦手。
 - ・思い通りにいかないことがあると、自分を否定するような言葉を口にしてしまう。
 - ・文字の読み書きに苦手さがある。
- ・使用した機器に iPad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

- ・当初のねらい **本人の願い:漢字を書けるようになりたい。**
 - ・読み書き基礎の定着を支える。
 - ・成功体験を積み、自己肯定感を上げる。
- ・実施期間 2021年6月～2022年2月
- ・実施者 石井百萌
- ・実施者と対象児の関係 特別支援学級の担当教員

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

学習面

- 音の合成の困難さが顕著なため、「み」「か」「ん」と一文字ずつ読むことはできるが、「みかん」のように単語のまとまりとして読むことが難しい。
- 文字を見て音に変えていくことが苦手なため、音読をする際には文字を一文字ずつ読んでいる。何度か読む練習をすると文節ごとに読めたり、音を手掛かりにすることでなめらかに読めたりするようになる。
- 言葉を音に分解していくことが苦手なため、練習して読めるようになった言葉(特殊音節)でも、書こうとするとスムーズに文字が浮かばない様子が見られる。
- 音と文字のつながりが不安定なため、音を文字に変えていく際に似た形が浮かんでくることもある。そのため、書くときに迷いがある文字もあり、「ぬ」と「め」など似た文字では書くときに文字の形が崩れてしまい、あとで読み返すことが難しくなってしまう。
- 教師が話をして途中で気になることがあったとき、最後まで集中して話を聞くことができず、話の途中で何度も質問したり聞きもらしたりする。

生活面

- 失敗体験を重ねており、できない=怒られると感じて「僕もうやらない、いいや」と言ってしまう。諦めずに頑張ったことを具体的に褒めても、「恥ずかしいから褒めないでよ～」と言ったり手で顔を隠したりして素直に受け取ることができない。そのため、自己肯定感もかなり低い。
- 見てほしいこと、聞いてほしいことがあると、反応してくれるまで注意を引こうとする。対して相手が「うるさい」「やめて」と反応すると、『もういいよ、○○ちゃんは僕のこと嫌いなんだ』と拗ねてしまう。

・活動の具体的内容

①言葉の塊を読む力をつける。

→「しゃべる教科書」を活用

- ・音声が出ている箇所を目で追いながら、一行聞いたら一旦止めて複唱する方法で、音読練習を行った。
- ・教科書で音読をする際には、斜線を入れて、言葉の塊で読めるようにした。

②文字と音の一致を促すことで、書きたい文字がスムーズに想起できるようにする。

→「ロイロノート」「ひらがなめっちゃわかるもん」を活用

- ・ロイロノートに、児童が大好きなトランスフォーマーのキャラクターを使って、文字と音の一致を促すスライドを作成した。
1つのチップに一文字ずつ入れ、それらを並び替えてキャラクターの名前を答える課題に取り組んだ。
- ・国語の時間が交流授業と重なっていることが多かったため、毎日の宿題にひらがなめっちゃわかるもんを取り入れた。

③文字の正しい形や線の動きをタブレット上で負担なく経験させることで、書くことへの困難を軽減していく。

→「美文字判定」「hiragana」「ロイロノート」を活用

- ・文字をゆっくり丁寧に書くことを目的として、書字の練習に活用した。

④短い言葉から、伝える経験を楽しみながら積む。

→「GoogleClassroom」「バイトーク」を活用

- ・水遊び大会(お楽しみ会)の日時、必要な持ち物を、ロイロノートに書いてスクリーンショットを撮り、GoogleClassroomから保護者へ配信するお知らせに添付した。
- ・国語の時間に、児童との日常会話をバイトークでやりとりして、文字で出来事を伝える練習をした。

⑤好き/得意なことで活躍できる場面をつくる。

→「GoogleForms」を活用

- ・家で飼育している動物たちの様子の写真や動画を撮影して、QRコード化して「うごくかんさつにつき」として廊下に掲示した。
- ・GoogleFormsを使ってどうぶつクイズを作り、学級内でクイズ大会を行った。

⑥活動に見通しを持たせ、集中できる時間を伸ばしていく。→「タイマー」を活用

- ・黒板に、この時間にやることを提示し、やることが終わったら消していくようにした。
- ・時間を決めて課題に取り組む際、教科の学習の際にはキッチンタイマーを、学級全体で活動を行う際にはねずみタイマーを使用した。

・対象児の事後の変化

①を通じて

- ・音の情報を補いながら読む練習を行うことで、言葉を塊で読むことができるようになった。
- ・何度か練習して読み慣れてくると、「みんなで／こえを／かけあって／じゅんばんに／ならびましょう。」のように、文節を意識して読むことができるようになった。
- ・4月当初と比較すると、かなり流暢に読むことができるようになり、児童本人の音読への苦手意識も薄れてきた。

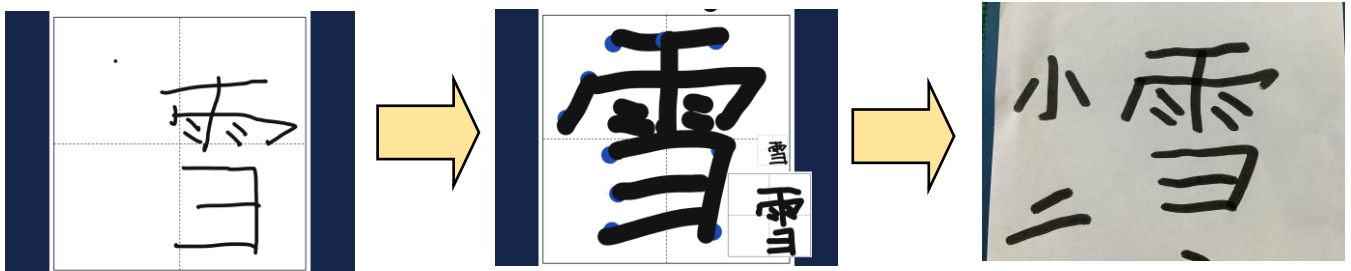
②を通じて

- ・「ゲームみたいで楽しい」と言って、毎日継続して取り組むことができた。
- ・実施当初は46文字全部埋めるのに10分ほどかかっていたが、文字と音が一致してきて、50音表が頭に入ってきたことで、3~4分でできるようになり、4月当初に比べると、読み書きがスムーズにできるようになってきた。
- ・文字と音の一致では、身の回りにあるもののスライドから始めて、慣れてきたらトランスフォーマーのスライドにも挑戦した。名前に拗音や促音が含まれているキャラクターが多かったが、「これはオプティマスだから てい だね」と言いながら、課題に取り組むことができた。
- ・朝の会で、今日の献立を、Safariを使って調べることがある。ジャージャー麺を調べた日に、ジャーが「じ」と小さい「ゃ」と認識することができ、教師に確認をしなくても入力したい文字を想起して検索できるようになってきた。



③を通じて

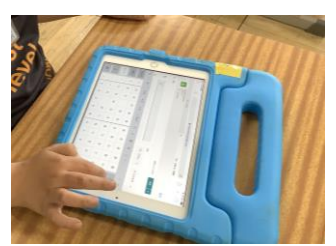
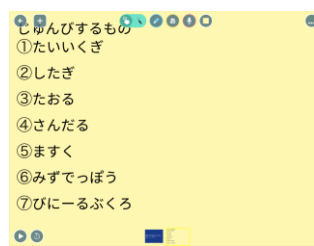
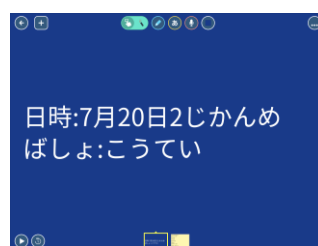
- ・評価が結構厳しく、お手本の通りに書けないと「残念」の表示が出てしまうので、はじめは『もうやらない』と言っていたが、『紙に書くよりいいかも』と言って、ゲーム感覚で取り組むことができた。
- ・校内書き初め展の練習の際、画数が多く形が取りづらい文字があったが、ロイロノートにマススライドを作って練習をした。「ペンで書くと疲れるけどロイロなら楽しいからできる」と、意欲的に練習に取り組むことができた。
- ・失敗しても簡単に消すことができる便利さが児童に合っていて、自分でスライドを何枚も複製して練習をしたり、上手に書けたものと比較したりしながら、文字の形を捉えて書くことができた。



④を通じて

- ・水鉄砲だけでなくサンダルや着替え、タオルなど、持ち物が多くて保護者に伝えられるか心配と言っていたが、ロイロノートにメモをしたことで、保護者にしっかり伝えることができた。
- ・自分で保護者に伝えられたことと、家に帰ってメモを見ながら持ち物の準備をすることができたことで、「自分でできた」という児童の達成感にも繋がった。

(↓自分で送信したお知らせ)



※バイトークは授業時間内のみの使用に制限した。

- ・使いはじめたころは、教師が「今日の宿題は音読と算数だよ」と送信したのに対して顔文字で返信していた。操作に慣れてきたので、児童の好きなことへの質問や休み時間の過ごし方などを聞いたりして、伝える練習をすることができた。
- ・今日の宿題を授業内で送信したとき、下校後にメッセージを送ってくれていたことがあり、次の日「昨日先生に『やったよ』って送ったけど見た?」と聞いてきたこともあった。単語での返信がほとんどだったが、画面上で会話のやりとりを楽しむことができた。



⑤を通じて

- ・動物のことを説明するときに抽象的になってしまっていたが、動画や写真があることで友達もイメージがしやすくなった。
- ・動画を見て、「これは何をしているところなの?」などの質問をされて、得意げに答える姿も見られた。
- ・通常学級の児童が廊下に掲示してあるこの QR コードに興味を示し、「面白い」と言いながら動画を見ている様子を、照れくさそうに見ていたが、自分の好きなものをみんなに知ってもらうことができた。
- ・友達や先生からもらった観察日記の感想を読んで、「みんなに見てもらって嬉しかった」と思うことができた。
- ・クイズ大会では、カメが甲羅に入る理由など、みんなが初めて知るような問題を作ることができた。



かんそうを、おしえてく そのほかをえらんだひとりくえすとなど、あればどうぞ!	
おもしろかった	クリオネのことが知りたい!
もっとみたい!	できたダンボールハウス、八ムちゃんのかわいいしゃしんが見たいです。
もっとみたい!	はむちゃんどむしのことしりたい
もっとみたい!	亀とゲームしてください
もっとみたい!	ユーザーバーみたいでうまかった🍌
おもしろかった	
もっとみたい!	ごはんをあげているところを見せてください
おもしろかった	ごはんとかを食べているところをみてみたいです

カメがこうらにはいるのはなぜ?! *

みをかくすため

みずの中がさむいから

こうらがすきだから

⑥を通じて

- ・やることを提示したら「今日は音読とタブレットとノートか〜」と、課題を一旦読み上げてやることを確認し、音読が終わったらタブレットを取りに行ったりして、落ち着いて学習に取り組むことができた。
- ・課題に取り組む時間を自分で決めてタイマーを設定し、タイマーの音が鳴ったら終わりにするようにしたら、「ピピピが鳴るまでやります。」と、集中できる時間が少しずつ伸びた。

【報告者の気づきとエビデンス】

本人の願い: 漢字を書けるようになりたい。

- ・毎日書く生活ノートで、自分の名前や曜日、漢数字、「生かつ」「体いく」など教科に含まれる漢字の習得にチャレンジし、手元に日課カードを置いてそれを見ながら書く練習を行った。定着したら次はこの漢字覚えてみる?と次々に提案していった。国語や算数に対して意欲的になることは少ないが、「みんなと同じように漢字を書きたい」という児童の強い願いが、学習意欲につながったのだと感じた。



- ・書ける漢字が増えた。
- ・漢字だけでなく、見て書く量も増えた。



・読み書き基礎の定着を支える。

- ・図書の時間に読む本が、絵や写真の多い図鑑から文字の多い児童書を選ぶようになり、文章を目で追いかけてながら小さな声で読んでいた。献立表などの掲示物にも興味を示すようになり、文字と音が一致してきて読む力がついてきたことで、読むことを楽しいと感じることができるようになったと考える。
- ・以前は「疲れるから」と視写を嫌がっていたが、最近はそのように感じることも少なくなってきた。教師や友達から「上手に書けているね」「落ち着いて書こうと頑張っているね」と褒められる回数が増えたことで、書くことへの抵抗感や負担感が薄れてきているのではないかと考える。

・成功体験を積み、自己肯定感を上げる。

- ・クイズ大会の準備では、「どんな問題にしたらいいかわからない」というところから始まった。まず児童が撮り溜めてきた動画や写真を見て、カメのオスとメスの見分け方や、ハムスターが手を噛んでくる理由、犬のエサの種類など、教師が知らなかったことを児童に質問してみた。児童は幼少期から家庭でたくさんの動物を育てていたため、飼育方法や動物の生態に関する知識が豊富だったため、「僕が知っていることはみんなも知っている」と思っていたようだった。観察日記やクイズ大会の準備で、「先生も知らないのに僕はいろいろ知っているから、僕ってすごいかも」と、自分を肯定的に捉えられるようになってきた。
- ・クイズ大会の感想を読んで、「楽しかったからまたやりたいな」という声を聞くことができ、自分の好きなことで活躍できたことが児童の自信につながったのではないかと感じた。

クイズ大会は	よかったところ			
おもしろかった				
もっとやりたかった	くんのイヌが可愛かった			
はじめてしたこと	クサガメや犬用のお菓子があつてということとか新しくわかつたところがあつてよかつた			
おもしろかつた	たのしかつた			
はじめてしたこと	クサガメの性別の見分け方や犬用のお菓子があつるところとか、新しく知つたことがあつて良かつたです			
おもしろかつた	君がいっしょうけんめい作つたのがすてきです			
おもしろかつた	ビデオがキューチューバーみたいですごかつた。😊			